第59回日本病跡学会
2012年6月23日(土),24日(日)

釈迦と構造主義

東京武蔵野病院

奥村克行　秀瀬真輔
金川英雄

はじめに

- 釈迦の思想とポスト構造主義には共通性がある。
- ポスト構造主義は構造主義が方法論的基盤である。
- 釈迦の方法論は明らかではないが構造主義的方法論を用いていた可能性がある。
- 釈迦の十二因縁生起説とラカンの理論を比較し、釈迦の思想の創造に至る過程を考える。

釈迦

釈迦とポスト構造主義の共通点

- 実体概念を措定せず、留保か否定する。
- 実体概念へのとらわれが哲学上の問題や苦しみを作り出すと考えた。

例

釈迦の思想

- 主体の実在性の否定

『五蘊説』

- 主体や対象の同一性や恒常性の否定

『色即是空、空即是色』

『諸行無常、諸法無我』

構造主義以降の思想

- 公理主義

『無定義語』

- 実態や現前の代わりに用いられる概念

『再現前』

『脱構築』

『差延』

西洋近代思想史の流れ

西洋近代哲学

- 存在や認識の確実性の追求、実体の追求

現象学や実存思想、構造主義

- 実体への見方の変化
- 構造概念にて理論や体系を作る科学の方法

ポスト構造主義

- 実体概念の排除、構造主義の徹底適用

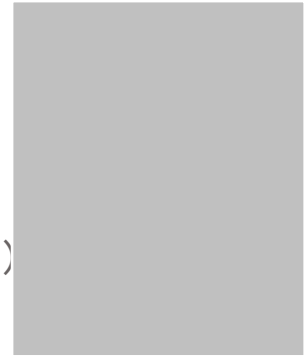
近代西洋哲学の流れ

近代以前：

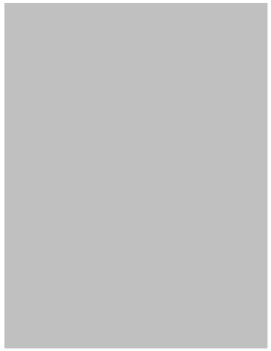
- 実体概念にとらわれた存在論や認識論を形成する。

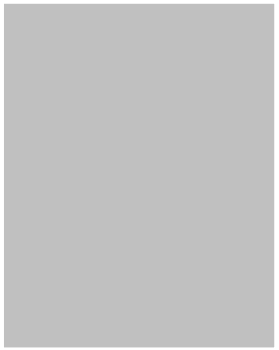
例：実在論や形而上学、プラトンのイデア論、デカルトの心身二元論、カントからのドイツ観念論

プラトンとアリストテレス
西欧哲学の源流



R.デカルト(1596-1650)
近代主義の創始者





I.カント(1724-1804)と
G.W.F.ヘーゲル(1770-1831)
ドイツ観念論へ

近代から現代へ

現代：

- 構造概念の導入。
- 実体を措定せず現前の機序を探求する。

例：現象学や実存哲学の実体の保留、数学の公理主義、言語学、精神分析学、歴史学など人文、社会科学や倫理思想における構造主義の導入・般化など

D.ヒルベルト(1862-1943)

実体概念の否定や公理主義により数学の体系を基礎から築き直す。現代的な構造主義の創始者ともいえる。

F.ニーチェ(1844-1900)

自分に都合のいい真理を作り出そうとする心の仕組みを考え、形而上学批判を行った。

M.ハイデガー(1889-1976)

現象学を用いて現前の意味を問い新しい存在論を作る。

ポスト構造主義

1960年後半からの新しい思想運動の総称。近代までの西洋哲学の流れと異なる新しい存在論や認識論を提示することで近代西洋哲学を終焉させた。

G.ドゥルーズ(1925-1995)

ポストモダニズムにおける新しい生き方のビジョンを示した。

J.デリダ(1930-2004)

西洋近代哲学の文脈の内部で西洋近代哲学の批判と解体を行う。

M.フーコー(1926-1984)

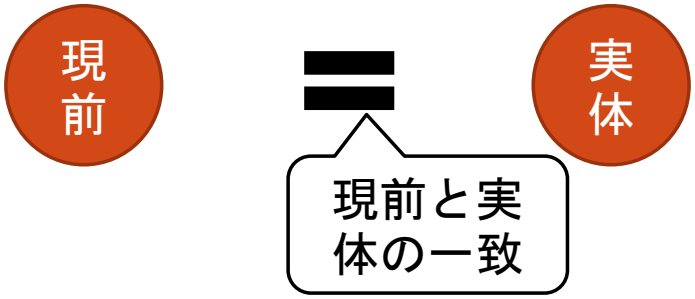
現実社会の様々な問題を新しい視点から分析、批判した。

現前

- 現にここにあること。感覚・意識に現れていること。西欧形而上学では恒常的実体と結びつけられた。
- その一方、ハイデガーは出来事として考え、デリダも脱構築の対象としている。

近代以前と現代、現前と実体

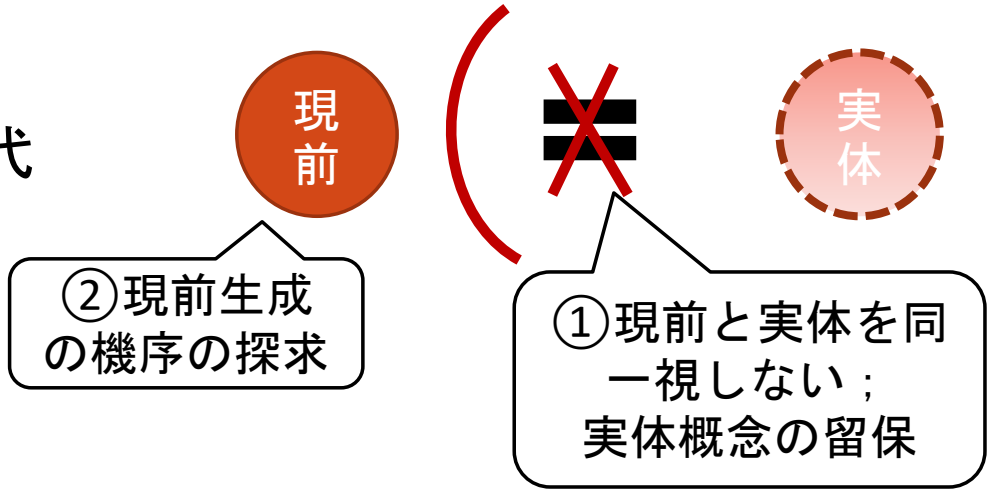
近代以前



現前と実体を同一視

→実体は何かと考える

現代



現前と実体を区別

→ ①実体は留保
②現前の成り立ちを考える

ラカンの理論

- 精神分析学の構造化
- 現実界、象徴界、想像界に世界を分ける
- 自己同一性をシェーマLで説明

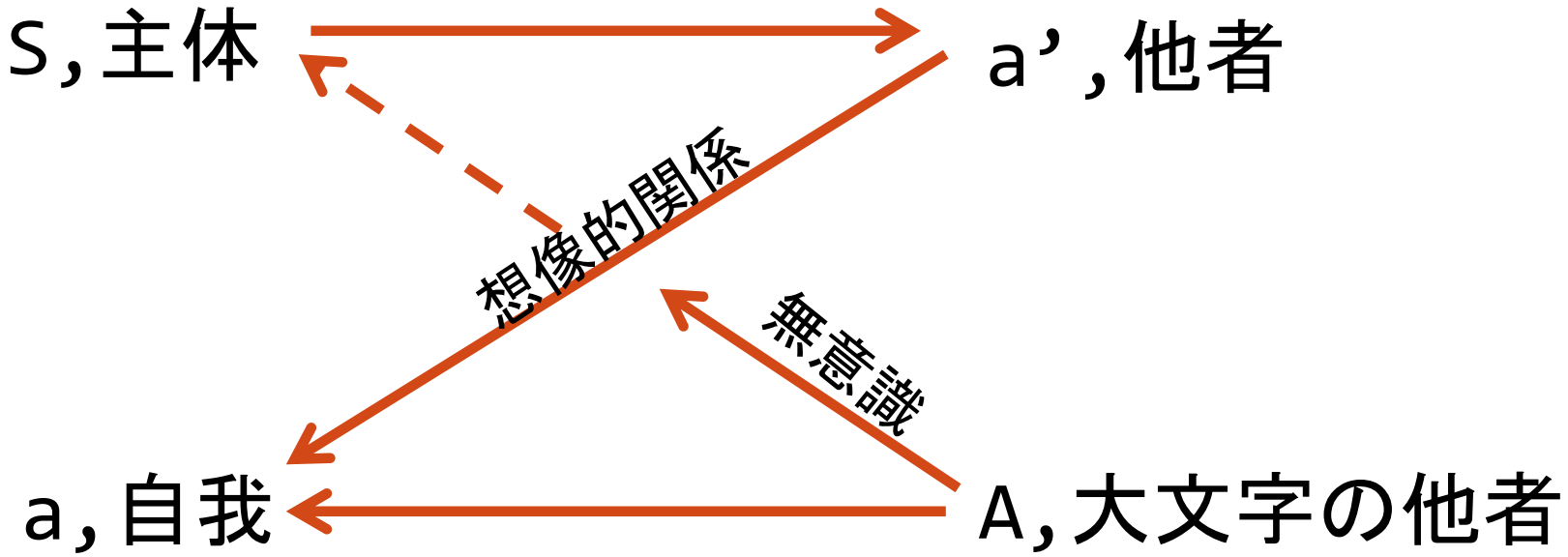
J.ラカン(1901-1981)
フロイトの精神分析を構造化した。

象徴界、想像界、現実界

- 世界を3つの面に分ける。

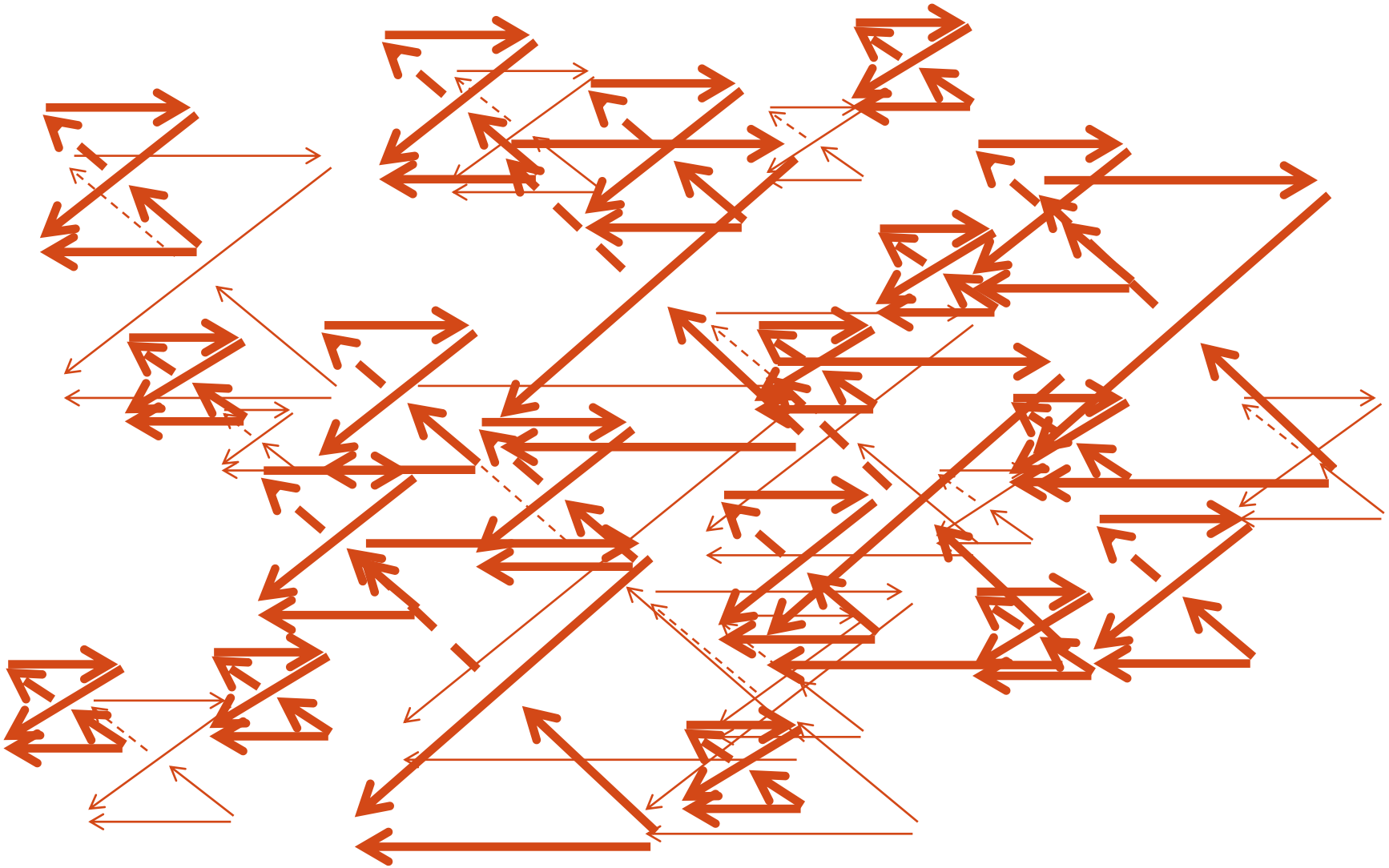
想像界	象徴界	現実界
現前が現象する意識の場	現前を記号化し言葉が生まれる	実体の世界

シェーマL



- 関係性や構造の変化により、現前も変化する。
- 現前のモデルにもなる。

現前が作る心的現象世界



現前についての考え方

- 構造主義以降

→ラカンやデリダの現前生成モデル

- 釈迦の思想

→諸説の中でも十二因縁生起説が現前生成のモデルである可能性

十二因縁生起説：現実の人生の苦悩の原因を、順に12段階をたてて説明したもの（根津美術館蔵）

釈迦の思想：十二因縁生起説

①無明
無知

②行
志向作用

③識
識別作用

④名色
物質と精神の現象

⑤六処
六つの感覚器官

⑥触
対象との接触

⑦受
感受作用

⑧愛
渇愛

⑨取
執着

⑩有
存在

⑪生
生まれること

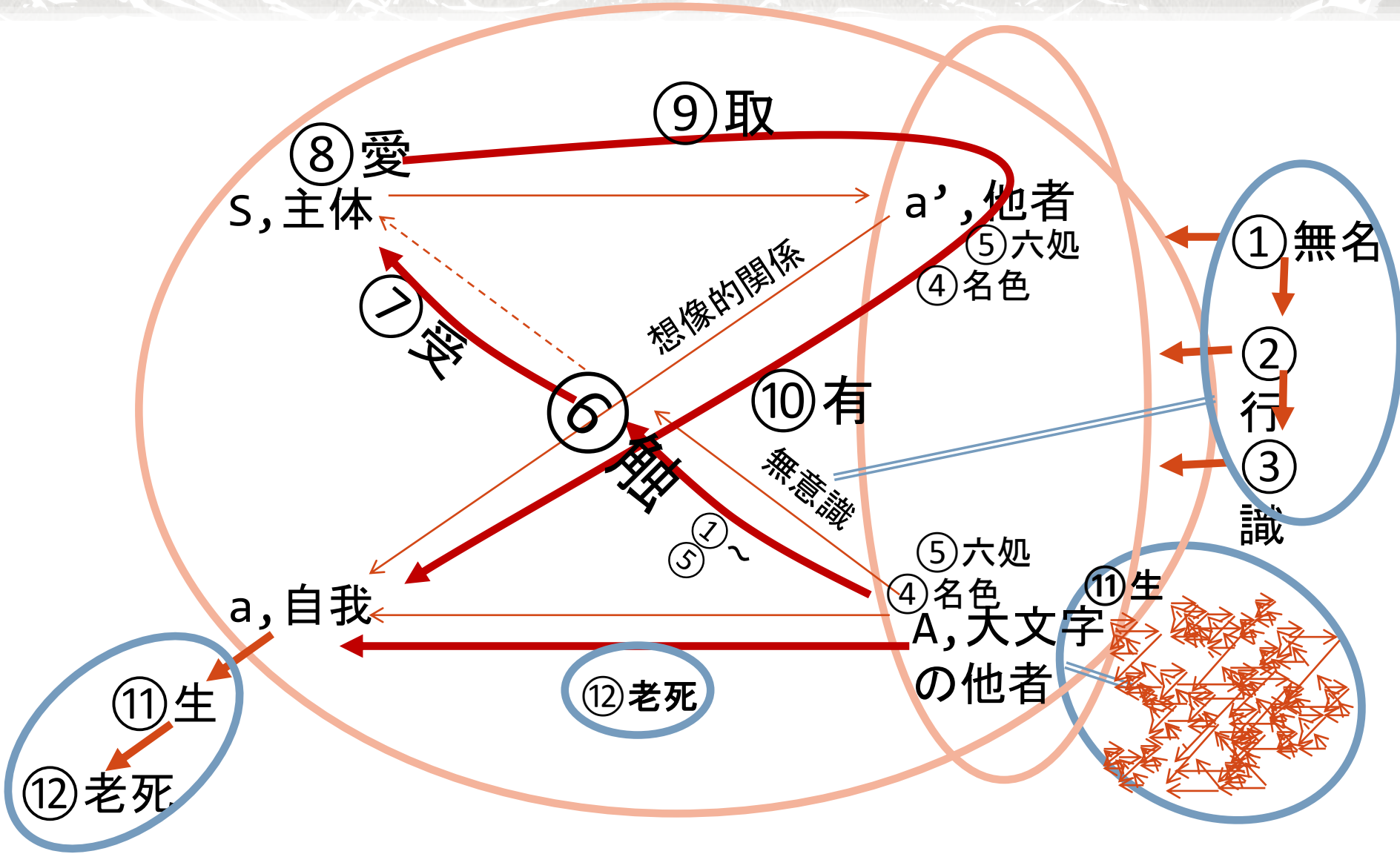
⑫老死
老いと死

現前のモデルとして読み替える

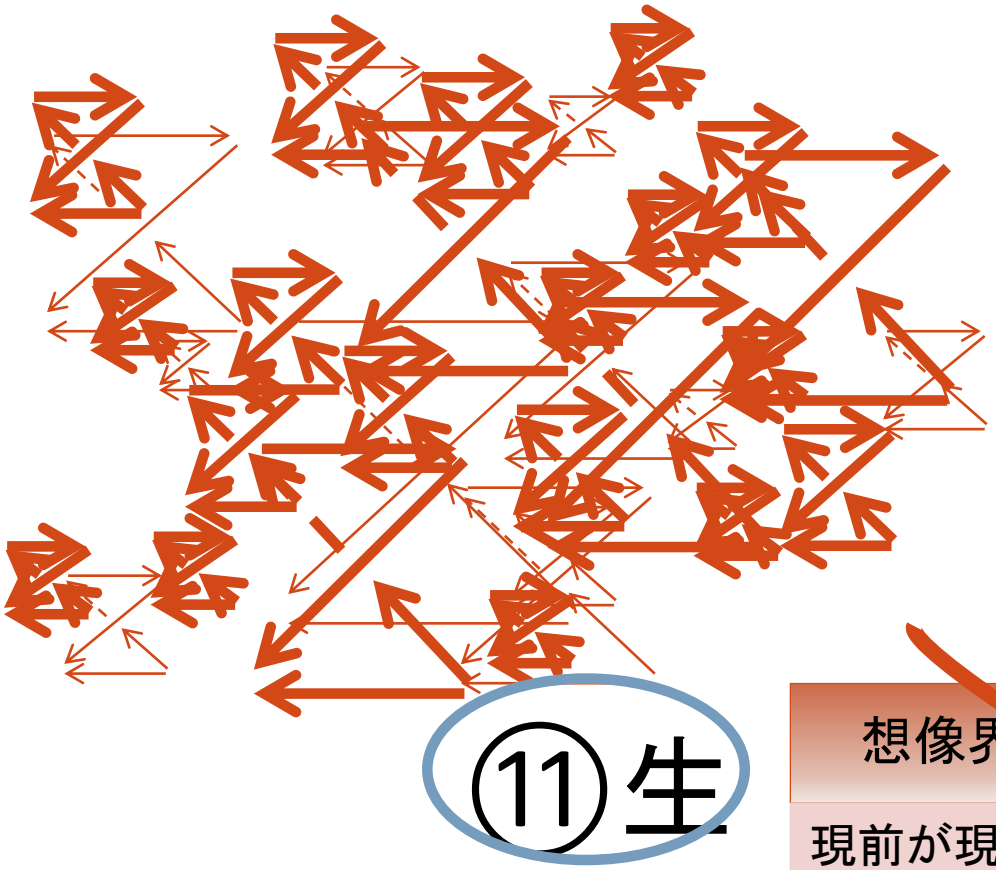
	伝統的解釈
①無知	無知
②行	志向作用
③識	識別作用
④名色	物質現象と精神現象
⑤六処	六つの感覚器官
⑥触	対象接触
⑦受	感受
⑧愛	渇愛
⑨取	執着
⑩有	存在
⑪生	生まれること

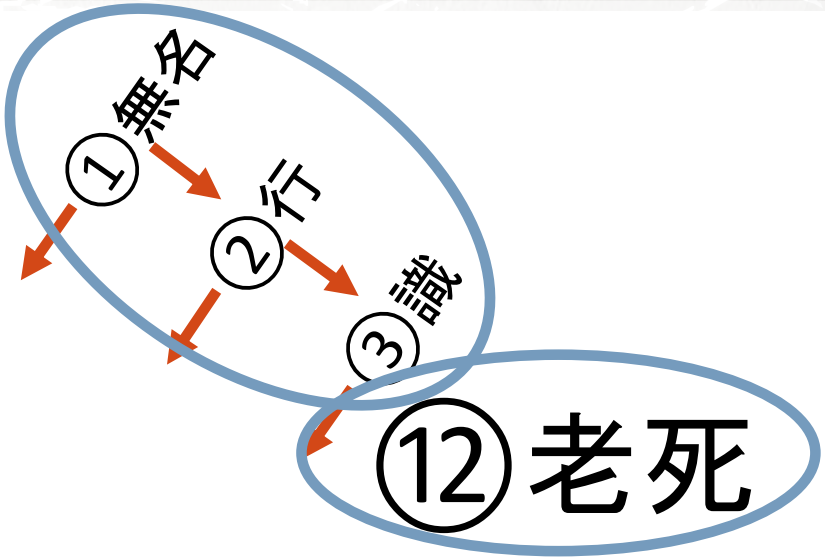
読み替え
無知、無自覚
志向、形成力
認識
抽象的知覚と物質的知覚
感覚のモダリティ
主客分離、対象化
好悪、情
愛着、欲動
取り込み、内在化、鏡像段階
鏡像段階、同一化、現前
現前で成り立つ現象や世界
関係と構造の変化による同一性や恒常性の崩壊

シェーマLと十二因縁生起の対応



現前と世界





実体を措定してしまう

想像界	象徴界	現実界
現前が現象する意識の場	現前を記号化し言葉がうまれる	実体の世界

現前

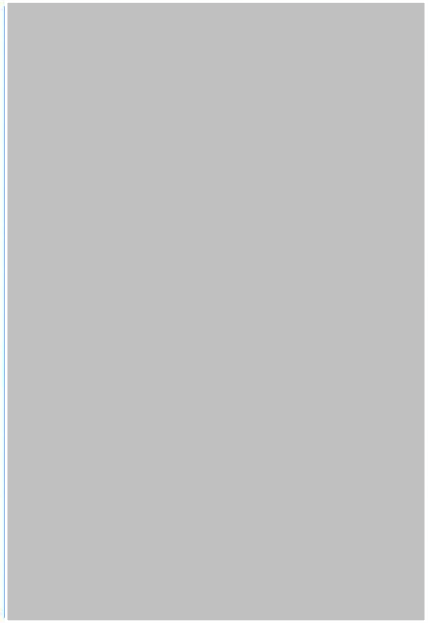
実体

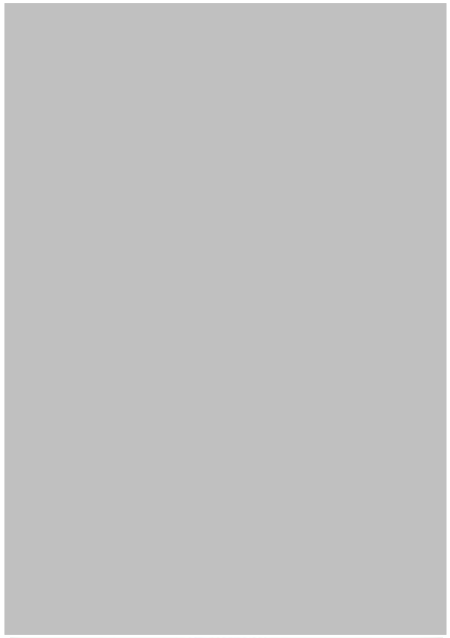
対応のまとめ

- ①無明は現前と世界が生成する仕組みについての無知、無自覚
- ②行は無知、無自覚に現前、世界を生成
- ③識は無知、無自覚に現前、世界を認識
- ②～⑩まで現前の生成
- ⑪は現前の集合としての現象界、世界
- ⑫老死は変化する世界を固定実体とみてしまうこと。同一性、恒常性に対する執着

余談

- 近年の認知科学はポスト構造主義や釈迦の思想へ接近がみられる。





認知科学の著書

まとめ

- 釈迦の方法論に一部構造主義的な手法が取られていると考えられる。
- 釈迦の思想はポスト構造主義と一定の類似性を認める。
- 二千数百年前、現在のポスト構造主義を示唆したことが、釈迦の卓抜した創造性である。